

関係機関・団体・課・室長 様


兵庫県農政環境部長

平成 28 年度 兵庫県農業気象技術情報第 7 号 (11~12 月情報) について (送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全 県 共 通	<p>1 生育、病害虫 <収穫後のほ場について></p> <p>ア 近年、縞葉枯病の発生が地域によっては多発傾向にある。ひこばえ等でも発病し、保毒虫増加の要因になるため、刈り取り後は速やかに (11 月中) 耕うんする。また、発生が多い地域では、冬期の畦畔雑草の管理を徹底し、ヒメトビウンカの越冬密度低減に努める。</p> <p>イ 紋枯病の多かったほ場では、耕うん回数を多くして越冬菌核を少なくする。</p> <p>ウ 表面排水に努め乾田化を図り、できるだけ早く稲わら及びたい肥をすき込む。その際は、ほ場条件や水稲の生育状況等を考慮し、ケイ酸質肥料等の土づくり資材を施用する。</p>	 <p>写真「ひこばえ」の縞葉枯病感染</p>
麦	全 県 共 通	<p>1 生育</p> <p>気象庁の 3 か月予報では、気温は 11 月は平年並み、12~1 月は平年よりやや低い。降水量は 11 月は平年よりやや少なく、12~1 月はやや多いと予想されている。</p> <p>麦は出芽時のほ場管理が増収の決め手となるため、排水対策を徹底すること。</p>	<p>1 生育</p> <p>土壌診断に基づいて、pH6.0~7.0 を目標に苦土石灰等の石灰質肥料を施用して土壌酸度を矯正する。</p> <p>早めに周辺溝や排水溝を設置し、必ず排水口に連結する。さらに、弾丸暗きょ等を設置し、排水対策を徹底する。</p> <p>適期播種に努める。播種時期が遅れた場合は、播種量を増やす。(11 月下旬では 2 割増とする)</p> <p>年内の生育が旺盛な場合は、5 葉期以降に麦踏みを行う。ただし、麦踏みはほ場が乾いた状態で実施し、その後、排水溝の手直しを行う。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
普通大豆	全県共通	1 生育 成熟期は平年並みの見込み。	1 生育 収穫時期は、莢を振って音がする頃を目安とする。 コンバイン収穫の際は、青立ち株及び雑草を除去し汚粒防止のため、茎の水分に留意して刈り取り時期を決め、適期収穫に努める。 ＜コンバイン収穫の刈り取り適期の目安＞ 茎水分50%以下になった時で、茎がやや黒みを帯びて、手でポキッと二つに折れる状態であること。しわ粒をださないように急速な乾燥は避ける。
黒大豆	全県共通	1 生育 成熟期はやや早まる見込み。	1 生育 計画的に各作業（葉とり、刈り取り、脱粒等）を行う。 裂皮、しわ粒をださないように急速な乾燥は避ける。
キャベツ	全県共通	1 生育 9月の多雨により植付けが遅れ、日照不足等により全体的に生育は遅れている。 2 病害虫 9月・10月が高温で推移したため、病害虫の発生が長引くことが予想される。	1 生育 追肥、中耕、防除といった必要な作業は、遅れないように実施する。乾燥が続く場合、早めに畝間灌水等を行う。排水不良は、生育を著しく遅らせるため、ほ場の排水溝の確保に努める。 2 病害虫 発生状況を見極めた上で、指導指針に基づいて適切に防除する。
果樹	全県共通	1 生育 凍寒害の発生防止に努める。 2 病害虫 越冬病害虫の密度を下げる。	1 生育 凍寒害や雪害の危険性のある園地では被害防止対策を行う。 ・イチジク：わら、アルミ蒸着フィルム等の被覆（主枝上面にわらの束を載せるだけでも凍害防止効果あり） ・クリ：幼木への株ゆるめ処理等 ・ナシ：早めの剪定（粗剪定）、果樹棚の点検、補強 ・カンキツ：不織布やコモの被覆 2 病害虫 病害虫による被害果、剪定枝及び落葉の焼却や園外への持ち出し等を行う。必要に応じて薬剤散布を行う。 カンキツは収穫前に貯蔵病害対策を実施する。

◎野菜・果樹の情報については、原則2ヶ月ごとに作成します。

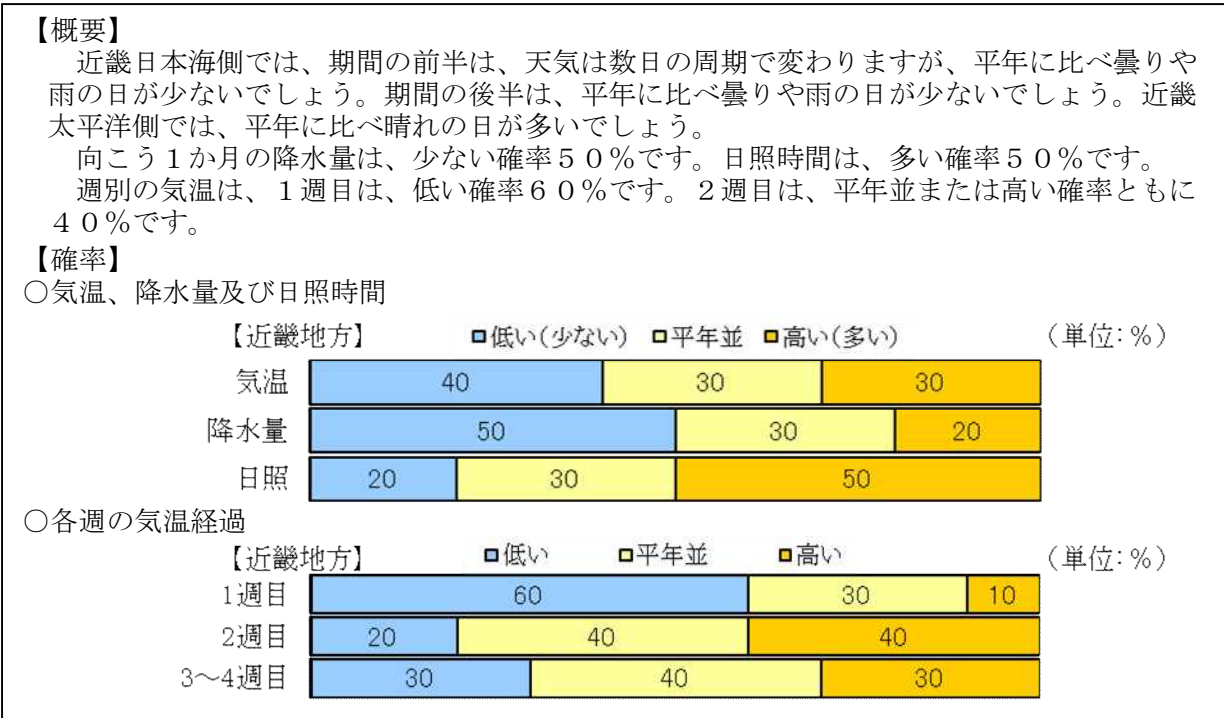
◎防除については「病害虫発生予察情報」及び「兵庫県農薬情報システム」を参考にすること。

※本情報は、10月28日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

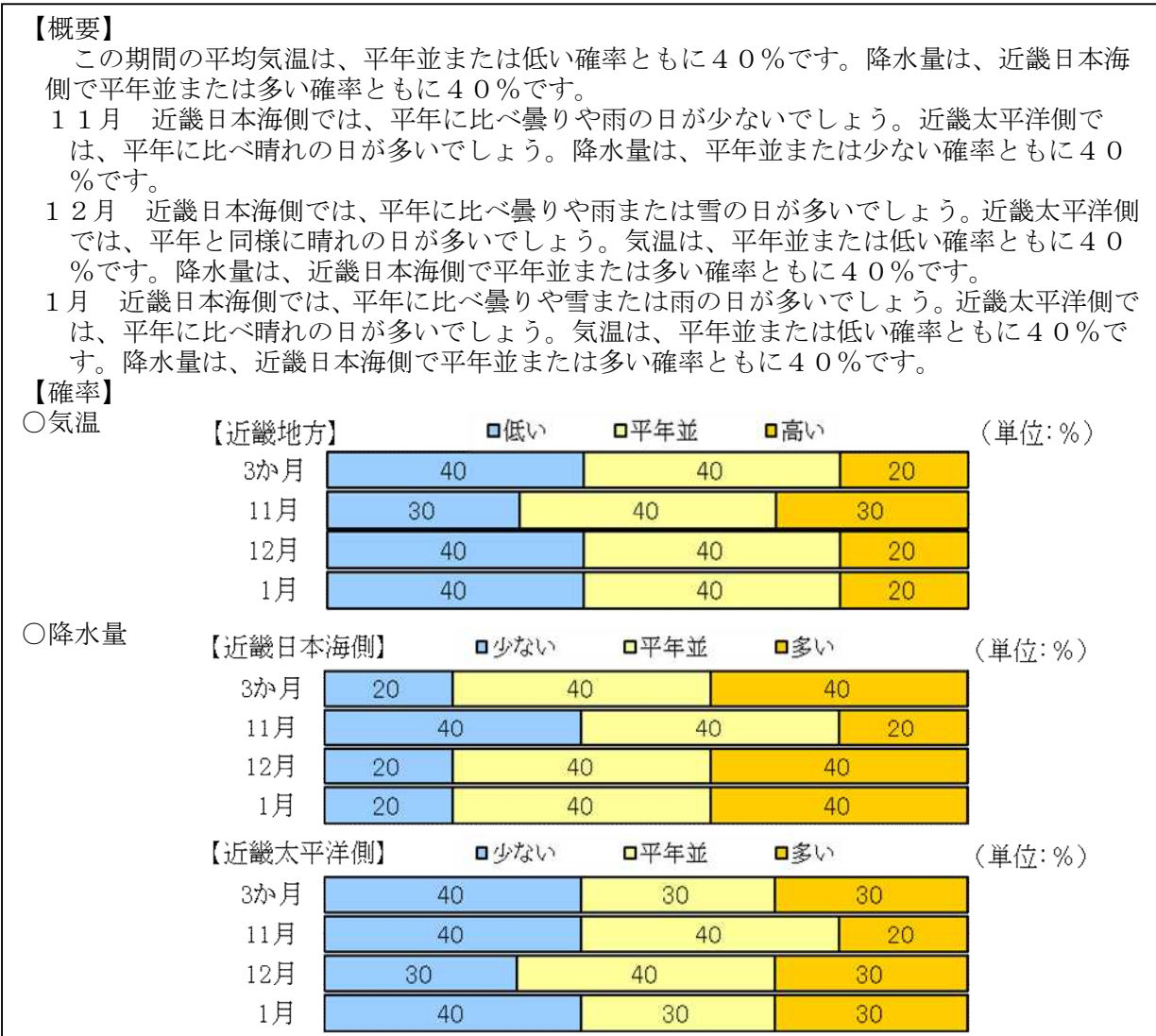
(1) 近畿地方の向こう1か月予報 (10月29日～11月28日)

[平成28年10月27日 大阪管区气象台発表]



(2) 近畿地方の向こう3か月予報 (11月～1月)

[平成28年10月25日 大阪管区气象台発表]



※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1981～2010年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病虫害発生予察情報」 <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「兵庫県農薬情報システム」 <http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「Web 水稲生育予測システム」 <http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稲生育予測」 <http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)
農産班:主作・機械担当 内線 4074
農産班:野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)